

青森新都市病院 地域医療連携だより

KADERU (かでる)

KADERU

INFORMATION FROM YUSHINKAI
AOMORISHINTOSHI HOSPITAL

2020年4月号

Vol. 9



Contents

- 「青森新都市病院における神経難病診療への役割」
脳神経内科部長 布村 仁一
- 第4回 医療・健康セミナー 「胃がんの治療」開催報告
- 施設のご紹介 <たく内科クリニック>
- 4月着任医師のご紹介
- トピックス
(研究発表会開催／看護部就職説明会／看護部長就任挨拶)



無料送迎バス



4月から、全路線に「13時の診療に間に合う便」を追加しました。

バス時刻表は院内で配布、またホームページでもご確認できます！
ぜひ、ご予約の上ご利用ください。

— 青森新都市病院における神経難病診療への役割 —

皆様こんにちは。昨年11月より青森新都市病院に脳神経内科医として勤務しております、布村と申します。さて、皆様は脳神経内科では、どのような病気の患者さんを診療しているかご存じでしょうか？脳神経外科と領域がかぶるところがありますが、頭痛、しひれ、めまい、痛みの患者さんをはじめ、脳卒中、意識障害、てんかんなどの緊急性がある疾患を診ています。それにもまして、私たち脳神経内科医の仕事の中心になっているのが神経難病診療です。いまだに原因がわからず、治療法もない脳、神経系が進行性に壊れていく疾患を神経難病と呼んでいます。代表として名前は聞いたことがあるかもしれません、筋萎縮性側索硬化症（ALS）やパーキンソン病、脊髄小脳変性症などがあげられます。治療法がなく、症状がどんどん進行して、日常生活を維持するどころか動くこともできなくなってしまうとても厳しい疾患です。患者さんの数はそれほど多い疾患ではありませんが、それでも青森県内に3000人程度の患者さんがいます。残念ながら、現在青森県の神経難病の患者さんに対する医療提供は十分とは言えません。青森県は日本の都道府県の面積が全国8位と決して小さい県ではありません。さらに地形的な問題で移動にことのほか時間がかかります。それなのに、脳神経内科の常勤医がいる医療機



関は10か所程度しかなく、しかもこれらは青森市、弘前市、八戸市に集中しています。さらに医療機関も少なければ脳神経内科専門の医師も県内に30人程度しかいません。こういった状況のなかで当院の神経難病診療における役割は決して小さくはないと考えております。また脳神経内科では認知症の患者さんもたくさん診ています。たぶん診療科の中で脳神経内科が一番たくさん認知症の患者さんを診療していると思います。認知症は精神科でしょう？と思われる向きもあるかと思いますが、アルツハイマー病などの認知症疾患も現在のところ原因不明で根本的な治療法もなく、進行性の経過をとる脳の疾患ですから神経難病と捉えることができ、私たちこそが扱うべき疾患と考えて診療しております。

最後になりますが、なにぶん当科は若くない医師一人で診療していますので、できることは限られていますが、住民の皆様のお役に立てるよう努力して参る所存であります。今後ともよろしくお願い致します。

青森新都市病院 脳神経内科部長 布村 仁一

第4回医療・健康セミナー

1月23日に開催された第4回医療・健康セミナーは、外科の原医師による「胃がんの治療」というテーマで行いました。

胃がん治療の現状、胃の機能と特徴、また後遺症や今後の展望についてわかりやすく説明していただきました。胃がんは、部位別がん罹患数で第2位、死亡数は第3位と非常に高く、東北地方や日本海側に多い傾向があるとのことでした。

胃がんは、粘膜からはじまる病気で、CT検査や内視鏡等のいろいろな検査を組み合わせて調べることでがんを評価します。がんの深達度により早期がんと進行がんに分けられますが、治療法は転移の有無で異なります。遠隔転移（遠隔リンパ節・腹腔内）がある場合は根本的に治すことが難しいため、化学療法などの延命的治療を行います。大きな遠隔転移がなく、胃がんが局所（胃内・領域リンパ節）にある場合は定型手術などの根治的治療を行います。問題点としては、胃がんがどこまで進行しているのかを術前に正



確に診断する技術が現在でも確立されておらず、術後の検査で転移が判明することがあります。

手術で胃を切除した後は小胃症状や、消化・吸収不良、胃の中に溜める機能が失われるダンピング症候群などの後遺症を訴える方が98%ほどいます。従って、障害を残さずどう治すかが今後の胃がん治療の展望となります。胃の切除範囲を縮小するとともに機能を温存することで術後障害が少なくなる「センチネルリンパ節転移診断に基づく機能温存根治手術」という新しい治療法がこれからに期待されています。

医療・健康セミナー等のイベントについて

現在、新型コロナウイルス感染症拡大等の状況に鑑み、医療・健康セミナー、市民公開講座、健康教室等のイベント開催を自粛させていただいております。

イベント開催が決まり次第、ホームページ、院内でチラシ掲示・配布、または新聞等でお知らせいたします。



施設のご紹介 - たく内科クリニック -



地域の皆様の「かかりつけ医」として少しでも地域医療に貢献していきたいとおもいます。今後ともよろしくお願ひいたします。

平成22年8月に青森市大野（甲田中学校の向かい）に開業しました。おかげさまで、当院は今年で10周年になります。

当院の特徴は糖尿病、高血圧症、脂質異常症など生活習慣病の管理と治療を中心に行ってています。生活習慣病を早期・軽症のうちに発見し、重症化しないように治療するように心がけています。また、管理栄養士による栄養指導や禁煙治療など生活指導にも力をいれています。



たく内科クリニック院長 渡邊 拓

〒030-0852 青森県青森市大野字山下 171-7

電話 017(752)1192 / FAX 017(752)1193

【診療日】月・火・水・木・金・土

【休診日】日、祝

【診療時間】9:00-12:00 / 14:00-18:00

【備考】水・土 午後休診

4月着任医師の紹介

※詳しくはホームページの医師紹介をご覧ください！

脳神経外科

尾金 一民（おがね かずみ）先生

脳卒中の外科的治療を中心に、脳卒中の予防的外科治療、内科的治療、脳神経外傷の治療などを行います。例えば、脳動脈瘤や脳動静脈奇形への対処、もやもや病や病や血管閉塞時の血行再建などがあります。

脳神経外科

福田 信（ふくだ しん）先生

私は、弘前市出身で一度臨床薬剤師として臨床現場で勤務後、弘前大学医学部の学士編入学1期生として編入学いたしました。経験を重視するため、他県での勤務後今回縁あって青森新都市病院に勤務させていただくことになりました。日本の脳卒中診療はこれから新たな段階に入ります。その中で青森県の脳卒中診療を守る一役を担えるよう頑張りたいと思いますのでよろしくお願ひいたします。

脳神経外科

よろしくお願ひいたします。

村上 友太（むらかみ ゆうた）先生

青森市出身で大学卒業して10年目になります。これまで勉強してきたことを活かすことや今後も研鑽して、地域の医療に貢献できるように努力していきたいと思います。よろしくお願ひいたします。



青森新都市病院 トピックス

第三回 春期 雄心会 研究発表会

2月15日に春の研究発表会を開催しました。

各部署から13の演題が発表され、今回の最優秀賞に輝いたのは、「聴覚障害に対するコミュニケーションの向上を目指して」を発表した放射線科の金沢さん。耳の不自由な方が検査を行う際のコミュニケーションツールである絵や文字のカードを更に理解しやすい様に改良し聴覚障害者や難聴者への対応の向上に繋がった結果を発表しました。優秀賞には「前立腺癌に対する放射線治療～チルト回転を克服しさらなる高度治療提供を目指して～」を発表した放射線治療科の佐々木さんでした。

特別講演では、青森山田高等学校サッカー部 黒田剛監督をお招きし、



金沢さん



佐々木さん

『常勝チームを作った最強のリーダー学』というテーマでご講演いただきました。フリーアナウンサーの境香織さんがパーソナリティーとして監督のトークをうまく引き出してくださいました。貴重なお話をたくさん聞くことができました。講演では、サッカーを通して身に着ける力、選手やコーチ陣の志気の上げ方、生徒との関係の築き方など会社組織の中でも応用することができるありがたい話しをとても熱く、そして時々笑いも交えながら楽しく語っていました。

当院は、今後も研究発表会などを通じて業務改善、個々のスキルアップ、患者さまへのサービス向上を目指して日々努めています！



黒田監督

看護部 合同就職説明会

2月29日に当院講堂において、函館新都市病院・青森新都市病院 看護部 合同就職説明会を開催しました。はじめに、病院案内を動画視聴し、院内見学、先輩看護師との意見交換、看護・教育・勤務体制などの説明を行いました。

参加された方は、「職場の雰囲気がわかり、就職後のイメージが湧いた。」「実際の業務を見て就職への参考になった。」と話しておられました。
ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました！！



看護部長 就任のご挨拶

この度、縁あって青森新都市病院の看護部長に就任させていただくことになりました。

私は、助産師として昭和56年から平成13年まで、西北五地域自治体病院（公立金木病院）に勤務し、周産期医療に携わり多くの「命の誕生」に寄り添ってきました。平成17年4月からは、14年間看護部長（公立金木病院／つがる西北五広域連合かなぎ病院）として勤務し、その間、平成21年には認定看護管理者を取得、看護管理について看護師の教育や支援を行ってきました。

今回、就任するにあたり青森新都市病院の理念に基づき、看護部門の教育に力を入れ「看護の質向上」に貢献できるよう、次の3点に重点をおいて取り組んで

看護部長 角田 つね

いきたいと考えております。一つ目は、患者さんに科学的根拠に基づいた質の高い看護技術を提供する。二つ目は、看護職員がやりがいを見出し、働き続けられる職場環境づくりに努める。三つ目は、地域医療を守るために看護提供体制を構築する。

今までの経験を活かし、精一杯務めさせていただきます。皆様どうぞよろしくお願ひいたします。



春暖の日々が続き、桜の開花も例年になく早めの予想がでました。しかし、「新型コロナウイルス」の影響により、公立学校の長期休み・多方面での催事中止。春といえば「お花見」ですが、今年は各公園でのお花見の出店も中止が検討されている状況、そして人込みということもあり、自粛しなければならないのではと...。花より団子を期待している私はとても残念です。(N・F)



編集
後記

医療法人雄心会 青森新都市病院

〒038-0003 青森市石江3丁目1番地 代表電話 017(757)8750/FAX 017(788)9901 ■患者支援センター 電話 017(757)8785/FAX 017(788)9902

地域連携だより「KADERU」
編集顧問 片山容一・末綱太